

第2回一貫した地域療育システムの構築に向けた検討プロジェクトチーム会議録（要旨）

- 1 日時 平成24年10月24日（水）午前10時00分～正午
- 2 場所 あいとぴあセンター 研修室 ABC
- 3 出席者 部会長 市川宏伸 副部会長 中川信子
部会員 松崎直子 大澤太志 飯田なおみ 荒井朋美
前田かおり 小林俊介 豊島秀臣 日下美恵子
門田昭子 田村 泉 岡橋生幸 小川正美
井上和信 岩崎春菜
事務局 福祉サービス支援室障がい者支援担当主査（小原正枝）
福祉サービス支援室障がい者支援担当主任（菊野有希子）
- 4 欠席者 部会員 松田 孝 榎本正樹
- 5 資料 資料1 児童発達支援「ぱる」の事業説明資料
資料2 あいとぴあ子ども発達教室「ぱる」パンフレット
- 6 議題 (1) 各課からの事業説明
(2) フリースクール KOPPIE の活動報告
(3) その他
- 7 議事

(1) 各課からの事業説明【資料1・2】

(部会員)

児童発達支援「ぱる」の事業説明

- ・「ぱる」の事業概要、問題点及び課題については、資料1・2のとおりであるが、その中でも特に「ぱる」の大きな課題は、グループ指導の受入人数が限られていることであり、現在、1グループ10名定員で60名近くの子どもが週1回（プール利用者の場合は週2回）の利用をしている。多くのニーズに応えるためにも、受入人数の枠を増やす必要がある。
- ・個別指導についても指導回数増の希望が多い。現状では、1つの部屋を各個

別指導のローテーション利用でやりくりしているため、指導回数を増やすことができない。

- ・グループ指導及び個別指導はいずれも、指導できる部屋をもう一部屋確保し、保育士、臨床心理士及び言語療法士等の専門職員の雇用人数並びに雇用日数を増やすことが必要である。
- ・療育相談については、月2回実施しているが、1回の実施で3件の相談枠しかないため、保護者の方が一番困っている時に適切なフォローが受けられないことがある。相談枠を増やせるように、相談場所の確保や相談員の雇用日数を増やすことが必要である。
- ・10月現在で7名の待機者が出ている。
- ・市内各機関との連携についても重要であり課題である。

(部会員の意見)

- ・「ぱる」でたくさんの待機者が出ている中で、「ぱる」と同じような支援ができる場を早急につくってほしい。
- (副部会長) 今後、「ぱる」が全てを受け入れていくことは難しい。市内でも児童発達支援を実施している民間施設があるが、この民間施設を紹介すべきかの判断が難しく、まだ整理ができていない状況である。
- (部会員) 幼稚園でも受入人数の拡大は検討しているが、難しい問題である。

(部会員の意見)

- ・支援が必要であるが、必要な支援を受けられない潜在化している人がどれだけいるのか。
- (部会員) 正確なところは把握していない。

(2) フリースクール KOPPIE の活動報告

(部会員)

- ・フリースクール KOPPIE は、15年前に立ち上げた民間の任意団体であり、スタッフは有償・無償それぞれのボランティア員がいる。
- ・前職の経験より、公的な枠の中だと必要な支援を必要な時に提供することができないと感じ、KOPPIE を立ち上げた。
- ・発足当時は、学校の中に不登校の児童・生徒が通える相談教室があったが、この教室の利用が難しい人たちが KOPPIE に通っていた。
- ・現在は、登録者48人のうち活動に参加できる方が28人であり、その他20人は活動には参加できないが、訪問等により相談を受けている方等である。
- ・主に小学生から二十歳位までの方が通っている。
- ・家庭以外に居場所がない人たちのために、社会への第一歩を支援することを

目的として実施している。

- ・学校との関係は、支援会議に出席することで連携をとるようにしており、家とスクールにおける子どもの状況については、保護者会を実施することで確認している。
- ・現在は、農業の田植え体験及び震災関係の活動等をしている。
- ・最終的な支援の目的は、KOPPIEの中で自立するのではなく、自分が属する社会の中で活躍できるように支援していくことである。
- ・今後の課題は、スタッフを維持していくことである。

(副部会長)

- ・発達に遅れがある子は通所しているか。

→(部会員) 不登校になるのは、集団への不適応が原因であり、そのほとんどが障がいまではいかないが発達に遅れがある子が多い。

→(部会員) 引きこもりについての正確な数値は行政では把握できていない。

(副部会長)

- ・学校に通い始めてから初めて発達に遅れがあるとわかる子が多い。

(部会員の意見)

- ・障がいとわかっていれば家族も周囲も対応ができるが、発達に遅れがある場合は明確化しにくく、周囲も対応が難しい。最終的に人間関係が一番難しくなる思春期になるまで問題が先送りされることが多く、早い時期に対応できるようにすべきである。
- ・ニートや引きこもりについて、東京都では35歳位までを対象としており、年齢幅は広い。
- ・発達に遅れがある子に対して、保育園・幼稚園がどのように支援していくかについては、とても難しいところがある。
- ・早い時期に支援は必要であるが、就労してからでも支援は必要である。

(部会長)

- ・国の方向としては、早めに対応することとしているが、保護者の方が子どもの発達の遅れを受け入れられるかは難しいところである。
- ・保育園又は幼稚園の時期に、発達に遅れがあることを保護者の方に認識してもらうことが必要であり、そういった相談ができるようなシステムをつくる必要がある。例えば、児童発達支援センターを設置することである。

(部会員の意見)

- ・親の立場としては、検診等に行ったときに、子どもの症状に対して障がいであると結論を出されてしまうことが怖いという気持ちがある。

→（部会員）お子さんのこととして、相談をするのではなく、親の子育て相談として、親としてどうしていくかというアドバイスができればよい。

（部会員の意見）

- ・子ども家庭支援センターでは、療育が必要な子を抱えた親の話を聞いているが、1人ではなく一緒に見ている人がいるという安心感を与えることがとても重要だと考えている。

（部会員の意見）

- ・「ぱる」が実施した保育園の先生を対象とした研修について、その成果をご報告いただきたい。

→（部会員）昨年度の研修実績では、前期・後期の研修で合計24名が参加している。出席した先生の中には、「ぱる」のやり方をアレンジし、早速、保育園で取り入れてくれた方もいた。同じような規模ではできないが、今後も各保育園と協力して実施していきたい。

（部会員の意見）

- ・「ぱる」における就学ガイダンスは、3歳児の時点で実施することは可能か。親の立場からは、年長になって初めて就学ガイダンスを受けるよりも、早いうちから就学後の情報提供がほしい。

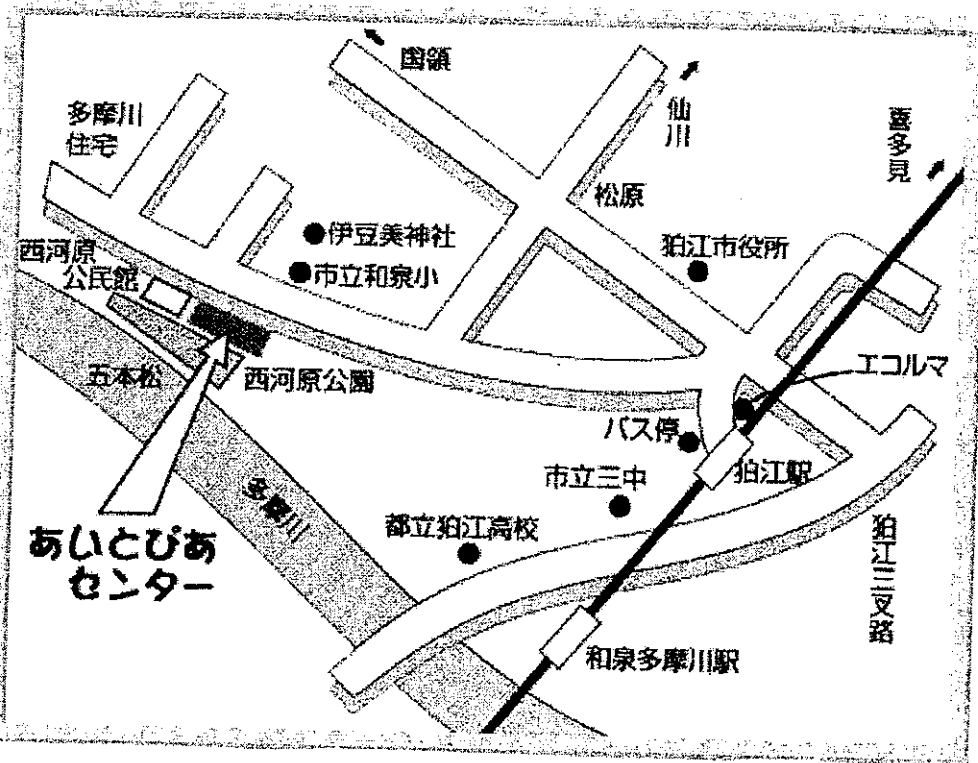
→（部会員）保護者の中には、3歳児からの就学ガイダンスとなると、ハードルが高いと感じる方もいるが、希望者がいるのであれば検討したい。

（3） その他

- ・次回（第3回）は、平成24年12月19日（水）午前10時～正午に開催予定。
- ・今後の会議スケジュールは、第4回を平成25年1月11日（金）、第5回を3月8日（金）いずれも午前10時～正午に開催予定である。

福祉サービス支援室

事業名	対象者	頻度・回数・人数	担当職員（スタッフ）	支援（フォロー対象）となる場合の問題点	今後の課題
〈福祉サービス支援室〉					
相談支援	障害者及び障害児	常時	ケースワーカー		関係機関との連携
〈児童発達支援 ばる〉					
早期療育訓練事業	ばる利用児（0～5歳児）	週1～2回 定員10名×6グループ 定員10名×2グループ（フル）	施設長、ソーシャルワーカー、臨床心理士、保育士、保健師	受け入れられる人数が少ない。グループ指導用の部屋が一部屋しかない。 ひとりの子どもをめぐり、市内の各利用機関との連携が必要。	ニーズに応えるために受け入れ人数を増やす必要がある。グループ指導ができる部屋をもう一部屋確保する。 市内各機関との連携を密にしていく。
個別指導	ばる利用児（0～5歳児）	1人につき 言語療法：年8回 作業療法：年2回 理学療法：年6回	言語聴覚士、作業療法士、理学療法士	指導回数が少ない。 個別指導で利用できる部屋が一つしかない。	専門職の雇用日数を増やし、指導日数を多くする。 個別指導用の部屋をもう一部屋確保する。
個別指導計画Ⅰ・Ⅱ	ばる利用児（0～5歳児）	個別指導計画Ⅰ・Ⅱ各年2回	ソーシャルワーカー、臨床心理士、保育士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士	作成するための日数が少ない。作成に関わる専門職が少ない。	作成期間を確保し、対応できる専門職を増やす。
個人面談	ばる利用児（0～5歳児）	年2回	ソーシャルワーカー、臨床心理士、保育士	利用者が多いため、十分な面談時間が取れない。対応できる職員が少ない。	十分な面談時間が取れるよう日数を確保する。対応できる職員を増やす。
保育園・幼稚園訪問	ばる利用児（希望者）	一人につき一回以上	ソーシャルワーカー、臨床心理士、保育士	グループを行いながらの訪問なので、行く保育士の人数が限られる。	保育園・幼稚園の先生方と顔を合わせ、支援方法を相談できる機会は重要。連携をさらに密にするため、対応できる保育士を増やす。
家庭訪問	ばる新規利用児（希望者）	年4日間程度	ソーシャルワーカー、臨床心理士、保育士	希望者が多いため、1件の訪問時間が短い。対応できる職員が少ない。	家庭での様子を見ながら、保護者の話を聞く機会は貴重。療育に十分生かせるように回数や職員を増やす必要がある。
就学ガイダンス	ばる利用児（5歳児）	ガイダンス：年4回 他、市内通級・園定級、市外特別支援学校等の見学	ソーシャルワーカー、臨床心理士	就学に向けて保護者が気持ちを作っていく時期であるが、対応できる専門職が少なく、ニーズに応えきれない。	保護者に丁寧に関われるよう、専門職を増やす必要がある。
就学後相談	ばる卒業児の保護者（小学生から高校生）	小学部：年4回 中・高部：年4回 合同：年1回 他、個別相談（随時）	ソーシャルワーカー、臨床心理士	小学校→中学→高校→大学または就労と相談内容が移り変わっていくにつれ、相談を受ける側の情報が少なくなる。	本人の幼児期からの成長を知っている相談場所という安心感を担保しつつ、適切な機関につないでいく必要がある。
小学校訪問	ばるを卒業した新一年生（希望者）	一人につき一回以上	ソーシャルワーカー、臨床心理士、保育士	他事業との調整を図りながら訪問日程を組むため、訪問時期が遅い。	訪問時期を早めて、早期に教員や保護者と支援方法を共有する必要がある。
就学支援会議	就学支援シートを提出したばる卒業児	保護者の依頼により出席	ソーシャルワーカー、臨床心理士、保育士	子どものニーズに合わせて開催する学校が増え、日程が重なってしまうことがある。	一人の子どものために、多くの関係者が一堂に会して話し合える大切な機会であり、保護者の安心感は計り知れない。今後もしそういう機会が増えると思われるので、対応できる職員を増やす。
就学支援シート	ばる利用児（5歳児）	保護者の依頼により作成	ソーシャルワーカー、臨床心理士、保育士	作成期間が短い。対応できる専門職が少ない。	短期間で作成できるように、対応できる専門職を増やす。
療育相談	市内在住の0～5歳児	月2回	小児科医、ソーシャルワーカー、臨床心理士、保育士	相談枠が一日3件しかなく、増え続ける相談に対応しきれない。相談の予約が数カ月先になるため、一番困っている時に適切なフォローが受けられない。	相談員の雇用日数を増やし、相談枠を増やす。相談用の部屋の確保も必要。



- ・ 狛江駅より徒歩15分
- ・ 狛江駅北口より小田急バス「多摩川住宅行」で福社会館前下車

<お問い合わせ先> ☎201-0013

狛江市元和泉2-35-1 あいとぴあセンター1階

社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会 “ばる” 担当

でんわ 03-3488-0294

FAX 03-3430-9779

Eメール pal@komae-shakyo.or.jp

ばる



《目的》

成長がゆっくりであったり、アンバランスであったりする子どもたちに楽しい遊びの場を提供しています。子どもたちが安心して自分を出し、遊んでいる中で力をつけていけるようにと考えています。

お父さんやお母さんにも参加していただきます。子どもたちとのふれあいを通してお子さんをよりよく知り、これからの成長のためになにを doing したらよいかを共に考えます。また、日頃、育児に奮闘しているお母さんにとって、“ばる”が、ほっとできる場になることも大切な目的です。

《対象児》

原則として、狛江市在住で、心身の発達に遅れがあったりアンバランスであったりする学齢前児童。

《日時》(月曜日～金曜日開室、祝日のほか春・夏・冬休みあり) グループ

- ① 月曜日グループ (0～5 歳児)
- ② 火曜日午前グループ (0～3 歳児)
- ③ 火曜日午後グループ (4～5 歳児)
- ④ 水曜日午前グループ (0～5 歳児)
- ⑤ 水曜日午後グループ (4～5 歳児)
- ⑥ 木曜日グループ (0～5 歳児)
- ⑦ 金曜日プール (0～5 歳児)

個別相談 (予約制)

- ① 心理相談
- ② 言語指導
- ③ 理学療法
- ④ 作業療法

いずれも、保護者同伴となります。また、児童デイサービスの申請が必要となります。その他、就学後の保護者相談も行っています。

《グループプログラム》

午前グループ

- 10:00～10:40 自由遊び・トイレ
- 10:40～11:10 集団遊び
- 11:10～11:30 テーマ遊び
- 11:30～12:00 昼食・歯磨き
- 12:00～12:20 自由遊び
- 12:30 終了

午後グループ

- 14:30～15:00 自由遊び
- 15:00～15:30 集団遊び
- 15:30～15:50 テーマ遊び
- 16:00 終了

プール

- 9:30～10:10 Aグループ
- 10:20～11:00 Bグループ

《スタッフ》

保育士・ソーシャルワーカー・臨床心理士・保健師
言語聴覚士・音楽療法士・理学療法士・作業療法士

《費用》

利用者負担金…児童デイサービス費用の原則一割を利用契約した事業所に支払います。

“ばる”の場合は狛江市が事業者となります。

負担額は、一回の利用につき、~~591~~⁵⁹⁰円です。

世帯の所得状況によっては軽減制度があります。

給食費…子ども200円、大人300円です。利用日当日にお預かりします。